

ライフケアサポート情報誌

こもれび

K O M O R E B I



特集

これからの介護サービス事業所
～わたしたちの事業所、職員のやりがい～



社会福祉法人 財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL.099-284-8250 FAX.099-284-8252
□ <http://www.saiseikai-kg.jp>

2025

vol.44

新年号



— ナイスエイジングリテラシー —

(老年期を豊かに生き抜く力)

済生会鹿児島地域福祉センター所長

吉田 紀子



新年明けましておめでとうございます。

年の初めに皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

いよいよ2025年の到来です。

2025年は団塊の世代がすべて75歳以上になる年で、75歳以上は総人口の17.8%、65歳以上は総人口の約30%と予測され、超々高齢社会に突入しています。

2025年の意義は、高齢化の進行という側面ではなく、高齢者人口の増加そのものに起因する社会的・経済的課題が大きくなるという意味で重視されています。

さらにもう一つの課題は、特に未婚増加の結果や血縁の疎遠化等による身寄りの無い独居高齢者の増加です。今後身寄りの無い独居高齢者は準標準的な家庭像と考えられ、これを前提とした諸施策が必要となってきます。

これらの現象は75歳以上人口が25%とピークに達する2054年ころまで続くことが予測されます。

以上のことより2025年から当面30年間の厳しい時代をこの国で人生を最後まで心豊かに生き抜くためには、国家・国民が自分事として、覚悟と備えが必要と考えられます。

国家としての対応策は「健康寿命の延伸」「シニア労働力の確保」「DX推進」「ソーシャルインクルージョンの理念に基づく共生地域づくり」があげられており、今年度は「身寄りのない高齢者等が抱える生活上の課題に対応するためのモデル事業の実施」開始や「高齢者等終身サポート事業者ガイドライン」の提示等がなされています。

国民にも健康寿命延伸の自助努力、元気なうちからの終活・備え、地域における互助活動、共生地域づくりへの参画など自分でできることの実践が求められています。

終活といえは死亡に向けての取り組みと考えられがちですが、実は終末期への備えがあることで今後の人生を安心して自分らしく生きることが終活の究極の目的といえましょう。

終活・備えとは将来病気や認知症や要介護状態になり自己判断できない状態になっても終末期を迎えるまでの間に必要な支援やサービスが使えるよう、また死後の対策について、元気で判断能力が保たれている現在からエンディングノートの作成や身寄りが無い場合は任意後見制度の契約など準備しておくという意味であります。

近年鹿児島市においても孤独死等の報道が相次ぎ、他人事ではなく身近な問題となってきました。

人生の終末期に頼れる人がいなくても納得のいく人生の完結を可能にするには平常時からの自助・互助・共助・公助がなくてはなりません。

そこで、済生会鹿児島地域包括ケアセンターでは令和3年度から「身寄りの無いおひとりさま終活支援プロジェクト」を立ち上げ活動しています。

まず、どのような備えが必要かを把握するため、身寄りが無い当事者と支援者に調査を実施しました。

その結果当事者の心配事は入院に関する事、看取りに関する事、死後の対応に関する事が上位3位をしめ、それらに関する備えと、その他客観的に必要と判断された全人的健康（心身等の健康）支援と情緒的支援に関することを加えた5項目に関する備えが必要であることが把握されました。さらに支援者の課題も把握されました。

そこでこれらの結果（ニーズ）を踏まえて令和6年度は身寄りの無いおひとりさま終活支援ガイドラインの作成に取り掛かっています。

当事者の方々が将来入院や認知症や終末期になっても安心して尊厳ある人生を全うできるように今元気なうちから取り組めること、備えることについての手引きを中心に、さらに支援者の方々の課題の解決に役立つ手引きも加えて作成中です。

ガイドラインは令和7年度の秋ころには公表予定ですが、そのガイドラインが公表されるまでの間にもできることとして

- ① **健康づくり**：野菜・たんぱく質中心の食事・適度な運動・趣味の活動・交流・社会参加等で心身の健康を保ちフレイル予防に努めましょう。
- ② **仲間づくり**：身寄りの無い方々にとって最も重要です。日頃からの交流で心の通った仲間がいれば、孤独感も軽減し、困った時や看取りの場合でも力になってもらえるでしょう。当事者同士の互助会ができればなお心強いです。
- ③ **情報収集**：元気なうちに、要入院・要支援・要介護になった際に利用できる医療・福祉・介護サービスに関しての情報を収集し、あらかじめ利用したいサービスを選びエンディングノートに記載しておきましょう。自己判断ができなくなっても支援者がサービスに繋げる支援をする際に本人の意向として大変役立ちます。本号では情報の一環として済生会鹿児島地域福祉センターの福祉・介護サービスをご紹介します。
- ④ **エンディングノートの作成**：エンディングノートは、市販のものでも結構ですが、鹿児島市が希望者に無料配布している「～私のエンディングノート～これまでの自分とこれからの自分 鹿児島市」は、社会資源情報も記載されており便利です。

医療機関では入院し重大な治療を受ける際に医療同意書等が求められます。本人が意識があり意思決定できる場合は問題ありませんが、意思決定できない状態の際や看取りの時期に、ご本人がどのようにしてほしいと願っておられるか分からないことで、ご本人の尊厳を保ち希望に沿いたい医療側は大変困ります。

これらの場面でエンディングノートに記載があれば、それを踏まえてチーム会議等によりご本人の意向に沿える医療対応ができるのです。

死後についても、身寄りが無くとも死後事務処理契約等の備えがあればご本人の意向に沿った対応が可能となりますし、エンディングノートに意向の記載があれば支援の際に参考になります。

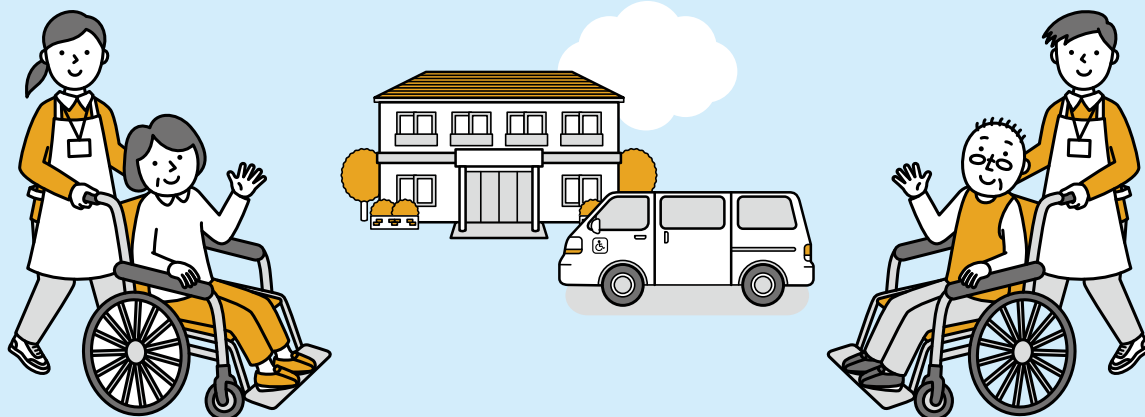
まさに制度的備えとエンディングノートは安心した老年期をおくるパートナーともいえるものです。終活の一環としての備えの具体的制度等はガイドブックに記載しますが、エンディングノートは備えの最も基礎的なものですので今のうちからは非準備しておき、1年ごとに元旦に見直し、修正しましょう。

以上少なくとも4つの取り組みを続け、そのうえでガイドラインで紹介する準備をしておけば身寄りが無くても安心して豊かに老年期を生き抜く力となりましょう。

済生会鹿児島地域福祉センターでは済生会鹿児島病院との密な連携のもと、身寄りがなくても安心して虚弱期・要介護期・終末期を過ごしていただけるよう、今後とも職員一同研鑽してまいります。

今年もどうかよろしく願い申し上げます。

これからの介護サービス事業所 ～わたしたちの事業所、職員のやりがい～



介護業界の今後

—2025年・2040年問題と共に—

今後高齢者の増加に伴い、医療・介護に関する社会保障費が増大し、生産年齢人口の減少により社会保障制度に対する一人当たりの負担が増加する事が問題視されています。団塊の世代が後期高齢者となるタイミングや、高齢者人口の割合が増加するタイミング、それらの節目の年をとって2025年問題、2040年問題と言われています。

これらの問題で、よく介護事業者の人材不足について取り上げられている事がありますが、実は改善傾向が見られるようになってきています。介護労働安定センターの調べによると2023年の人手が足りないと回答していた事業所は49.9%であることが分かりました。まだまだ高い水準ではあるものの、2019年に人手が足りないと返答していた事業所が55.7%あった事を考えると少しずつ改善していることが見て取れます。

魅力がある介護業界。その魅力の一端でも皆様に伝わればと思い、今回は済生会鹿児島地域福祉センターの事業所紹介を職員のやりがいと共に紹介していきたいと思ます。

特別養護老人ホーム高喜苑

特別養護老人ホーム高喜苑は、要介護3以上の認定を受けられ、心身の障がいのために日常生活において常時介護を必要とし、居宅では適切な介護を受けることが困難な方々が入居し、生活していただく施設になります。

どうしても介護度の高い方が多く入居されているので、体力的に大変な面はありますが、それ以上にやりがいのある職場です。高喜苑ではご入所されている方の希望を叶える取組みとしてご自宅への一時帰宅や近隣への買い物などを行い、ご本人、ご家族が大変喜ばれています。



介護に関することや
医療との連携などの部分で
自身のスキルアップを図れます。



ご家族からの
「ここで最期をむかえられてよかった」
といった言葉にやりがいを感じます。



シルバーフラット武岡台

60歳以上の方で、自炊等が難しく一人では日常生活を送ることに不安がある方の「住まい」です。

施設内で入居者間での人間関係という「コミュニティ」があり、施設の外部との関わり合いという「社会生活」があります。

おひとりおひとりの「住まい」としてこれまでのライフスタイルの継続や、プライバシーが守られるよう生活を支援させていただきます。

職員間のチームワークを感じたとき充実感で満たされます。



ご入居者の生きがいを支えることができたと感じることが出来た時やりがいを感じます。



ご入居者とのふれあいの中で温かい気持ちになりやりがいを感じます。



行事に参加されるご入居者が明るい笑顔で談笑される姿に充実感を感じます。



済生会なでこの杜

済生会なでこの杜は今年で11年目を迎えました。センターの他の施設の中では一番新しい建物環境の中でお仕事をさせてもらっています。

サービス付き高齢者向け住宅では、60歳以上の方であれば、自立の方から要介護の方まで入居することができます。併設されているヘルパー、訪問看護、居宅介護支援の事業所のサービスを24時間受けることが出来るため、入居者様やご家族様には安心を提供できていると思います。

私たちは、入居者様の日ごろの困っていることなどの相談や体調の変化など、必要に応じて関係事業所や医療機関と連携し対応しています。ご希望があれば、施設での看取りをさせて頂くことがあります。

入居者様とご家族様の要望を可能な限り伺い、お別れの時を迎えた時。最後にご家族様より「なでこの杜に入居できて良かったです。」と言ってくれた時は、最高の言葉をいただいたなと感じます。



皆様に笑顔で過ごして頂き、個々の思いに寄り添いたいと思います。

退居・お別れの時は寂しい限りですが、「ここで過ごせてよかったです。」の一言をいただく、とてもやりがいを感じます。



グループホーム武岡ハイランド

私たちのグループホームでは、認知症と診断された方が家庭的な雰囲気の中で生活をされています。朝に起床からのお手伝いが始まり、夜寝るまでの日常をサポートさせて頂いています。

私たち職員がお声掛けやお手伝いをする中でも、各人が出来ることを行いながら、お一人お一人が役割をもって、生活を意欲的に過ごして頂けるよう目標にしています。例えば、洗濯物たたみ・テーブル拭き・お盆拭き・メニュー書きなどを行っています。「私がするから、持っておいで」などと言われることもよくあります。

また、毎日テレビを見ながらの体操も午前・午後と行っており、筋力低下や理解力低下予防も行っています。



分からなかったり、忘れてしまうなかでも、出来ることがひとつひとつ増えていく時には感動を頂いています。



入居者様の笑顔と「ありがとうね」の言葉を見聞きする中で、やりがいと楽しさを感じています。



ホームヘルプステーション高喜苑

済生会サポートセンターなでこの

ご自宅に介護職員（ホームヘルパー）が訪問し介護サービスを提供する訪問介護や、24時間の定期巡回訪問介護サービスを行っています。

要支援から要介護の方まで日常生活を過ごす上で必要な入浴、排せつ、食事の介助等や調理、洗濯、掃除等の家事をお手伝いさせて頂いています。



利用者様の日常を支えているといった自負、充実感にヘルパーのやりがいを感じます。



利用者様との会話する事や近隣の方からお声掛けして頂く事で元気がでます。



ひとりひとりに寄り添った支援を出来る事にやりがいを感じます。



なでしこ訪問看護ステーション

訪問看護は利用者様の自宅に訪問して、必要な医療ケア等を行います。当ステーションには3名の常勤職員と6名の非常勤看護師、6名の非常勤の理学療法士が在籍しています。

職員に訪問看護の「やりがい」を聞いてみたところ、利用者様の最期の場に立ち会わせていただける「看取り」と答えが返ってきました。

最近では病院では無く自宅で家族に見守られながら最期を迎えたいと希望される方も増えています。実際に私たちも多くの自宅での看取りを経験させていただいています。

ご家族、ご利用者からの学びがたくさんあります。
ご家族の中に入って、
共に泣き笑いしながら関わらせて頂くことが
やりがいとなっています。



利用者様がご家族と一緒に
自宅で過ごす大切な時間に
携われる事に感謝です。



武岡台デイサービスセンター

居宅で介護の必要な方を自宅から専用車両で送迎し、健康チェックや食事、入浴、日常生活動作訓練などのサービスを提供いたします。

当事業所は目の前に桜島を望む景色の中、広いフロアには、機能訓練室が整備され機能訓練機器やリラクゼーション機器を備えています。

また、温泉での入浴は利用者様に大変喜ばれています。



利用者様の「声にだせない“HELP”」に
気づけるようになり、
支援に繋がれたとき、
自分でも「成長できているな!」と感じ、
嬉しかったです。



利用者様とのコミュニケーションで、
自分の名前を呼んでもらえた
(覚えてもらえた)時や、
笑顔で接してくれる時、
この仕事をやってよかったなと感じます。

居宅介護支援センター高喜苑

私たちケアマネージャーは、寝たきりや認知症のお年寄りを抱えているご家族や、お年寄りご本人からの、いろいろな悩みについてご相談をお受けします。

そして、ご本人が少しでも自立でき、ご家族と快適な生活が送れるように必要な介護プランを作成、様々な介護サービスが利用できるようにマネジメントをしています。

現在男性2名、女性2名計4人のケアマネージャーで利用者様の支援を行っております。介護保険の対象にならない困りごとについても一緒に考えていきたいと考えています。



利用者様から頼られる事、
信頼関係を築けた時に
やりがいを感じます。



最後に…

私たち済生会鹿児島地域福祉センターでは実習生の受け入れも積極的に行っています。

先日鹿児島女子短期大学からの実習生2名と話しをした際に「今後の介護業界の人手不足解消の一助になればといった想いで介護の勉強をしている」といった話を聞き、今後介護の未来を憂いているのは介護に携わる人だけではないなと感じたところです。

高齢化が進む日本、現役世代がどんどん減ってしまう事が目に見えていますが、皆様の介護が十分に行えるよう済生会鹿児島地域福祉センターは尽力してまいります。



其人紹介

〈プロフィール〉

堀之内 藤子様

大正14年生まれ

鹿児島市出身

血液型：AB

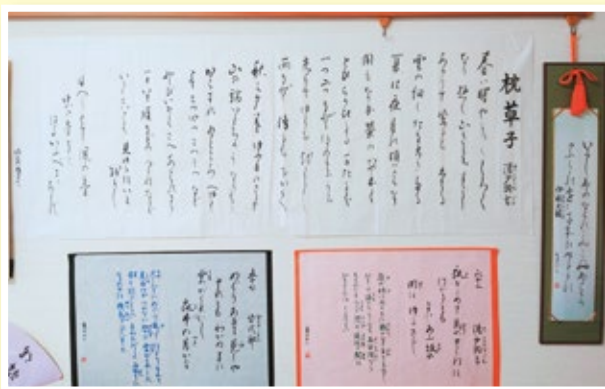


現在、済生会なでしこの社にご入居中

私達の施設には、長年の経験や努力を積み重ねてこられた素晴らしい才能や特技をお持ちの方がいらっしゃいます。

堀之内藤子様は写経の他に、短歌や俳句を詠まれます。読まれた歌を聞かせて頂くことや、私たち職員へも、日々の感謝の言葉を書面で頂くこともあります。

若い年代では、筆を持つことはほぼ無いと言える日常ですが、堀之内様は、墨をすり筆を日常的に使われています。



Q 作文や習字などの趣味は、いつからお好きでしたか？

A 教員だったので、作文や読書、習字などは、必然的にやっていましたが、もともと好きでした。あとは、音楽が好きです。

Q 小さい頃は何かをして遊んでいましたか？

A 小学生の頃から、作文や読書が好きで、国語や社会（歴史）が好きでした。また、運動は長距離走よりはかけっこ（短距離走）が好きです。あとは、勉強をしていました。

Q 作品の投稿について？

A 社会人になってからも、新聞の「ひろば」等に投稿し、今もなおずっとしています。掲載された時は嬉しかったです。楽しくて、それが今も支えになっています。



素晴らしい人生の一部・・・お年を重ねられても、生き甲斐をお持ちです。

趣味を通じて、日々の生活が豊かに充実しておられる姿に、私たち職員は、日々感動を頂いています。目指せ、FF様!!

定例のご利用者満足度調査を実施しました

第16回 利用者満足度調査 集計結果

【実施対象者】福祉センターサービス利用者若しくはその家族

【実施期間】令和6年7月10日～令和6年8月31日

【回収方法】返送（返信用封筒にて）

ご利用(入居)者及びご家族の皆様へ

当センターが皆様に満足いただける福祉サービスを提供することを目的に実施した「第16回 利用者満足度調査」にご協力頂きありがとうございました。

お寄せいただいた貴重なご意見・ご要望につきましては、職員で共有し改善に向けて取り組んで参りますので、今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

済生会鹿児島地域福祉センター 所長

1 調査基本情報

	人数
調査票配布数	584
調査票回収数	355
回収率	60.8%

2 利用者基本情報

	人数
男	101
女	242
無回答	12
合計	355

3 設問別 選択肢選択件数

【共通設問】

	①	②	③	④	⑤	無回答	合計
問1	1	2	48	83	220	1	355
問2	1	1	46	53	250	4	355
問3	4	1	48	53	245	4	355
問4	1	13	40	50	249	2	355
問5	4	4	51	62	226	8	355
問6	7	10	57	76	198	7	355
問7	0	8	38	52	246	11	355
問8	5	4	42	68	234	2	355
問9	14	4	54	60	215	8	355
小計	37	47	424	557	2,083	47	3,195

4 評価（満足度）

【共通設問の評価】

※「共通設問の評価」の算出方法については次のとおり

$(\text{④と⑤の合計}) \times 100$

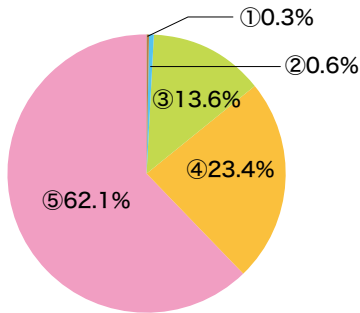
$(\text{合計} - \text{無回答数})$

83.9%

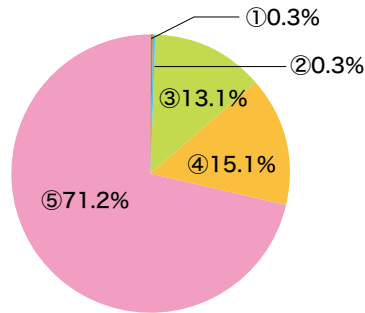
【第16回 利用者満足度調査 質問別結果】

① 良くない ② やや良くない ③ 普通 ④ ほぼ良い ⑤ 良い

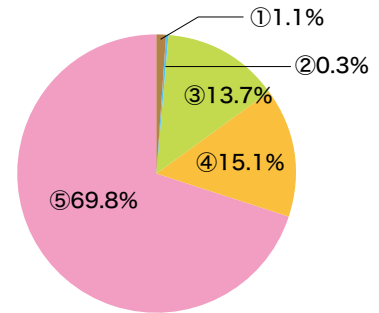
問1 職員の身だしなみは適切ですか？



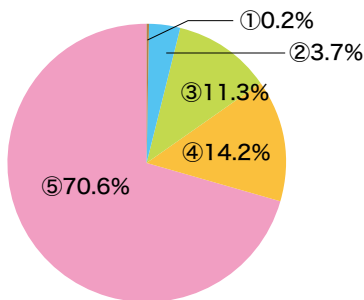
問2 職員の言葉使いは適切ですか？



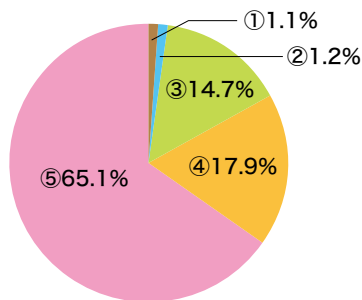
問3 職員はご利用者及びご家族のプライバシーに配慮していますか？



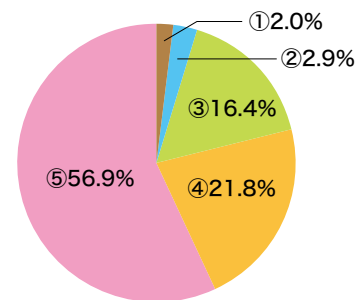
問4 職員はご利用者及びご家族の考え方や意向を尊重し要望を丁寧に聞き、迅速・適切な対応をしてくれますか？



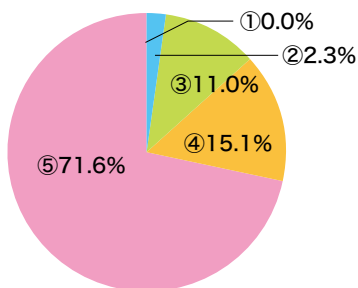
問5 職員又は法人窓口はご利用者及びご家族の不満や要望を丁寧に聞き、迅速・適切な対応をしてくれますか？



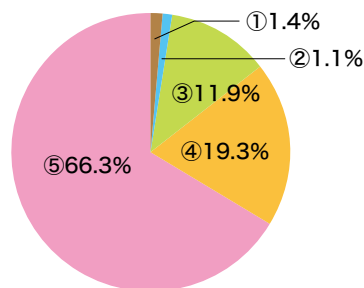
問6 職員はお互いに連携が取れていて情報が良く伝わっていますか？



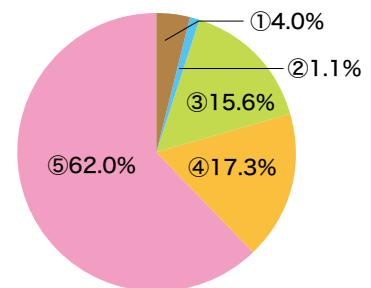
問7 職員はご利用者の体調不良や怪我等の事故が起きた時に適切な対応をしてくれますか？



問8 サービスの利用開始(入居)時に契約書やサービス内容について詳しく説明を受けましたか？



問9 今利用している施設やサービスを友人や知人に紹介したいと思いますか？



今回の調査を振り返って

毎年、実施しております“ご利用者満足度調査”も今回で16回目となりました。毎年ご協力を頂きありがとうございます。今回の調査では、問2の「接遇」に関する項目が高い結果となり、今後も継続していけるように努めてまいります。逆に問6の「職員間の連携」に関する項目が、満足度が低く、話した事が伝わっておらずに不安や不信感を感じている方がいらっしゃるということをしっかりと受けとめ、改善できるように努力してまいりたいと思います。今後もご利用者、ご家族の思いを大切に安心してサービスをご利用いただけるように、各事業所や職員一同サービス向上に努めて参りたいと思います。



新年を迎え、フレイル予防に努めましょう



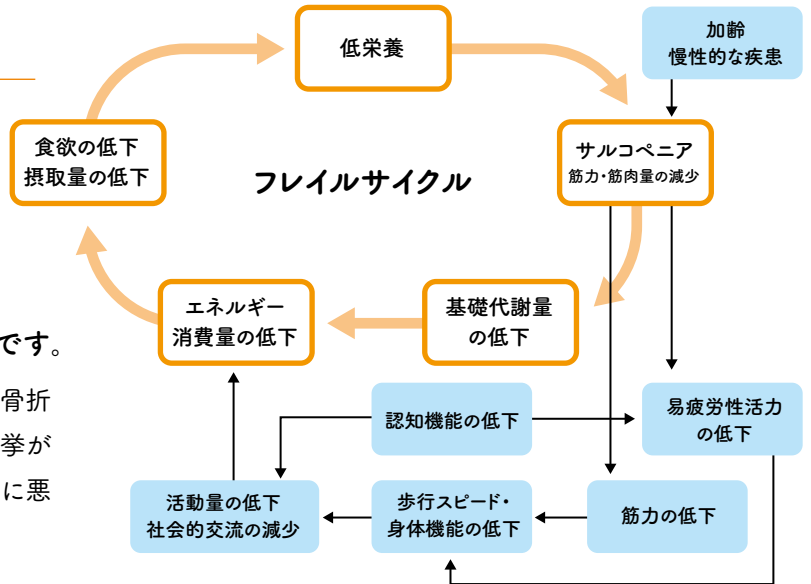
「フレイル」とは「Frailty(虚弱)」を日本語に訳したもので、「健康」と「要介護」の中間にある状態のことです。高齢者の多くは急に要介護状態になるのではなく、徐々に身体的機能や認知機能が低下すると考えられています。その過程にある段階を「フレイル」と呼びます。「フレイル」は、適切な治療や予防によって改善できます。介護が必要になる前に変化に気づき、対策することが大切です。

フレイルが進む原因

- ① 身体的要素
- ② 精神・心理的要素
- ③ 社会的要素

この3要素による悪循環が「フレイルサイクル」です。

フレイルサイクルに陥るきっかけとしては、転倒・骨折などの身体的負傷や、慢性的な疾患の悪化が多く挙げられます。適切な予防や治療をしなければ状態はさらに悪化し、要介護状態になる可能性もあります。



ふくらはぎの一番太い部分に、両手の親指と人差し指で輪っかをつくる

自分でできるフレイルチェック「指輪っかテスト」

困めない ちょうど掴める 隙間ができる

低 サルコペニアの危険度 高

転倒・骨折などのリスクが高まる

フレイルは予防が大切

運動

毎日しっかり歩いたり、階段の昇り降りをしたりするだけでも、筋肉は活性化されます。一時的に激しい運動をするのではなく、継続して取り組むことが重要です。

社会参加

高齢になると独居や夫婦二人暮らしなど、日常的に関わる相手が少なくなりがちです。人との関わりが減ると、精神的に孤独になり身体面にも悪影響をもたらします。うつが認知症を悪化させるという研究もあり、認知症予防の観点からも社会的つながりを持つことは重要です。


食事

低栄養は筋力低下を招く大きな要因です。筋肉のもとになる魚、肉、卵、大豆製品に加え、骨を強くする牛乳や乳製品も積極的に食べると効果的です。



ちょっとした気持ちの持ち方で予防できる取り組みです。「転ばないで!」「お肉もしっかり食べて!」「たまには散歩に行きましょう!」。皆様も日常の取り組みで要介護状態になる事を少しでも遅らせましょう。

秋の外気浴

 グループホーム武岡ハイランド

令和6年10月中旬に、苑内にあるキバナコスモスとマリーゴールドを、みんな一緒とはいきませんが、少人数に分かれて見に行きました。

風もなくいい天気で、絶好の外気浴日和でした。

なかなか遠出ができない中でも、「もう、マリーゴールドやコスモスの咲く時期なんだねえ。」「きれいな花だねえ。」「これは何という花なの?」「誰が手入れをしているの?」等と、スタッフへの会話も弾み、笑顔にあふれていました。

今後も、入居者の皆様と一緒に楽しく、温かい家庭的な雰囲気の中で過ごすことができるよう知恵を出し合い、スタッフ一同励んでまいりたいと思います。



99歳の姉(左)と97歳の妹(右)

晴天の下で、焼き芋会

 なでしこの杜

済生会なでしこの杜では、11月中旬に焼き芋会を開催しました。

この日は、なかなか冬の気配を感じる事の無かった鹿児島市でも、やっと最高気温が20℃程となり、外での焼き芋会には最高のお天気でした。

全国でも1位を誇るお芋の産地である鹿児島県、今回のお芋は、鹿屋市で生産された「紅はるか」を使用しました。

ある程度火を通したお芋を、アルミホイルにくるみ炭火の中に入れ、焼き目を付けました。アルミホイルを開けると、柔らかいお芋のにおいと湯気で、焼き芋のおいしさを感じることが出来ました。

入居者の皆様は、晴天の下で暖かいお芋を『美味しい、美味しい』とほおばり、喜んでいただきました。



〈基本理念〉 「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

済生会鹿児島地域包括ケアセンター

済生会鹿児島病院・かごしま介護医療院

〒892-0831 鹿児島市南林寺町1-11

TEL 099-223-0101 **FAX** 099-227-4790

済生会鹿児島地域包括ケアセンター

済生会鹿児島地域福祉センター

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8250 **FAX** 099-284-8252

特別養護老人ホーム 高喜苑

〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕

〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号

TEL 099-284-8253 **FAX** 099-284-8252

シルバーフラット武岡台

〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6870 **FAX** 099-283-6871

済生会なでこの杜

〔サービス付き高齢者向け住宅〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-202-0710 **FAX** 099-283-6876

指定居宅介護支援センター高喜苑

〔指定居宅介護支援事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-4737 **FAX** 099-283-4733

グループホーム武岡ハイランド

〔認知症対応型共同生活介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-7231 **FAX** 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター

〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡

〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6880 **FAX** 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション

〔指定訪問看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-281-9292 **FAX** 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑

〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ

〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕

〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2

TEL 099-283-6875 **FAX** 099-283-6876

編集 後記

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、穏やかな新春を迎えられたことお喜び申し上げます。今年の干支は「乙巳(きのとみ)」で、柔軟性と適応力を象徴する「乙」と、再生と変化を意味する蛇を表す「巳」が組み合わせられています。

この年は、努力を重ねて物事を安定させる縁起の良い年とされています。

新年号では、福祉センターの各事業所を紹介しました。私たちも、皆様と一緒にこれまで積み重ねてきたことが芽吹き、花が開く、そんな一年になればいいなと思うところです。

